

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102499		
法人名	医療法人 社団 敬愛会		
事業所名	敬愛シニアガーデン桜堤 (さくらユニット)		
所在地	福島市八木田字井戸上50-1		
自己評価作成日	平成22年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成23年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日には近くの公園に散歩に出かけたり、外食やドライブ等外出の機会を多くしている。職員がピアノを演奏しての合唱や、ボランティアによる民謡・詩吟を行い声を出して健康的に過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 運営推進会議では、町内会や家族代表委員による活発な意見交換が行われ、その結果が利用者サービスや事業所運営に反映されている。また、会議開催日に災害避難訓練を行い委員の協力を得て会議開催日に災害避難訓練を行い、地域協力の必要性について理解を深めている。
 2 利用者は明るく整容にも気配りが感じられる。地域ボランティアの協力による民謡、詩吟、絵画、ちぎり絵などの活動やスタッフによるピアノ演奏などにより、事業所が活気のある楽しい生活の場となっている。
 3 各ユニット毎に前年度の事業評価を行い、それらを基に新たな年間目標と具体的な短期目標を掲げ、職員は目標達成に向け研鑽を重ねケアサービス向上に努めている。また、キャリアパス導入により資格取得等、職員の資質向上が図られている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務室に掲示して職員相互間の共有に努めている。	職員全員で作り上げた地域密着型事業所としての独自の理念を具体的に実践するため、運営方針を掲げ、年間の目標をユニットごとに定め、利用者のケアサービスに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催のふれあい広場に参加したり、積極的なボランティアの受け入れを行っている。	語り部、民謡、詩吟等の地域のボランティアの訪問があり、事業所も積極的に受け入れ、利用者との交流を深めている。また、毎月町内会主催のふれあい広場に参加し、地域の人たちと馴染みの関係を築きながら交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方へ出席を求めたり、学生の職場体験学習を通じ若い人々への認知症理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議の中で行事報告や事故報告をして意見や要望を尋ね話し合いをしている。	運営推進会議では特に地域の代表や地域包括支援センター、利用者家族の代表等の参加が多く、運営に関する意見も積極的であり、委員の参加意識が高い。外部評価の結果報告や事故報告など公開し、意見を得ながら改善に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターから出席してもらっている。	行政との連携も円滑に行われており、事務的な助言を得たり、情報収集などにより、適正な事務運営に反映させている。事業所を研修の場として行政職員に活用してもらうことなども検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束を行わない事を意識して介護している。	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について全職員が理解し、実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の勉強会を実施し、言葉による虐待とならないよう意識し、職員がお互いに気をつけている。また、身体虐待が行われていない事を確認する意味で入浴時にその行為の形跡がないことを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の学習会をしている。それを利用した方については協力した。今後も適切に支援出来るように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を読み合わせして、十分な説明を行っている。また、内容を改定する時は運営推進会議等で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置して運営推進会議のたびに参加者の前で開けて話し合っている。家族との会話の中で私たちに聞きやすいまたは、話しやすい雰囲気作りに気を使っている。	運営推進会議の中でも家族の意見が多く出されており、意見箱の意見・要望等についても会議の中で開示し、運営に反映するよう努めている。家族等の面会も多いため、雰囲気づくりに配慮しながら意見等を聴き反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議の中で職員から出た意見、提案を反映できるように努めている。	定期的に施設長を交えた全体会議を行っており、職員が自由に発言できる場を提供し運営者と職員との意思の疎通が図られている。キャリアパス制度を導入する等意欲的な取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の経験を生かし働きやすい職場作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加しそれを伝達研修と言う形で報告会を行い介護技術・知識の向上に努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県GH連絡協議会に加盟し、会議・研修にはその都度出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にできるだけ本人に見学してもらい、納得の上で入居してもらう事になっている。初期には特に関わりを多くし混乱を最小限にし、なじんでいただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の段階から家族のニーズや悩みを聞き、入居後も時間を取り、不安が解消され、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査の情報を元に、現在の症状などで必要としている事柄を見極めた上で支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りを一緒に行い、利用者に教わることを職員は大切にしている。一緒に食事と片付けをし共同生活する関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、手紙などで家族との連絡を密にして情報を共有し、本人にとり何が必要か話し合い協力を求め、ともに支えられるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や馴染みの方の面会を通じて、今までの関係が途切れることが無いように努めている。	馴染みの場所へ家族同伴で出かけたり、行きつけの美容院や理容院を利用したり、美容師が事業所を訪れるなどして、出来るだけ馴染みの関係を維持できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が話せる様に橋渡しをしたり居室へ案内して会話が出来る環境を作っている。入居者同士の問題が発生しそうなときは、職員がさりげなく間に入り問題が悪化しないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこれまでの関係を大切に、相談があればいつでも対応すると伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式により本人の思いを把握し、ケアプラン作成時にはその都度本人に意向を聞いている。意思表示が出来ない場合は、ご家族の意向を合わせ本人本位に検討している。	センター方式を活用し、更に利用者や家族の意向を汲み取り、個別的にきめ細かに思いの把握に努めており、日々の生活が充実したものとなるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で「聞き取りノート」を活用しこれまでの生活歴・生活環境の把握に努めている。また、家族の面会時には本人から得られない情報を聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの得意な事が発揮出来る場を提供している。バイタルチェックや表情の変化を観察して心身状態の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に状況の説明をして利用者と家族の要望を取り入れ、スタッフ間で話し合い現状に即した介護計画の作成に努めている。	利用者の意向及び身体状況を踏まえ、家族の意向を取り入れた現状に即した介護計画となっている。しかし、支援内容に基づく個別記録からは、評価の根拠が明確でないケースが見られた。	介護計画に基づくサービス提供記録は、具体的なサービス内容等を記録することが大切である。記録の中から客観的に評価することによって、目標も含めた適切な計画変更が可能となるため、記録についての検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の介護記録に利用者の様子や気づき、対応を記載し申し送りノートを活用して情報共有に努め、ケアプランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	趣味・嗜好の多様化に応えるために、出来る限り個人の要望を取り入れるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアのご協力为民謡・詩吟・民話等を楽しんでいる。また、地域の行事に毎月参加したり、保育園児の訪問、中学生の体験学習受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望があればかかりつけ医による継続的な医療を受けてもらっている。協力医療機関は24時間対応可能で月二回の往診が行われている。	利用者ごとのかかりつけ医が一覧表で整理され継続的な通院支援がされている。職員が通院同行した場合には、結果を家族に報告し、また家族同行の場合にも口頭で報告を受けるなど情報を共有し、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状態の変化を見逃すことなく小さな気づきでも看護師に報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報提供を行っている。ケアマネージャーを通し、情報交換を密にし早期退院に向け努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合、終末期のあり方について家族と話し合い出来ることの説明を行っている。	「看取りに関する指針」に基づき、医療機関等との連携により、家族等の意向を尊重し、適切な看取り介護を行った。今後も職員間で看取り支援のあり方を研鑽することとしている。	医療連携加算事業所であることから、看取り介護についての同意書に基づき、入居の際に利用者又は家族等に事業所が対応できるケアについて十分説明し、同意を得ることが必要である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルがある。定期的に勉強会を行い様々な症状に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を実施している。火災や水害の発生時には、地域の消防団に応援してもらえるように話し合いがなされている。	夜間想定や身動きができない利用者の搬送の仕方も研究しながら毎月1回避難訓練を実施している。年1回は運営推進会議の開催日に合わせて委員の協力を得て実施しており、地域の消防団とも話し合いが行われている。備蓄も整備されてある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護について理解し、介護記録等はスタッフルームで管理している。利用者に対する言葉使いに気を付け、職員同士でも注意している。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉づかいに配慮し、尊敬の念を表しながら支援している。守秘義務について理解し、利用者の個人情報管理を適切に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりする場面を日常的に作り、言いやすい関係を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりのペースや望んでいる思いを大切に支援し、利用者の表情を見ながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットやカラーの希望を聞いて、出張美容室を利用している。洋服へのこだわりや化粧品については、その人らしいお洒落が楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一緒に食材を切ったり盛り付けを行っている。献立の会話をきっかけにしてなごやかに食事が出来ている。	利用者の希望を取り入れた献立に栄養管理面の配慮があり、職員と一緒になごやかに食事をしている。調理、配膳、後片付けの手伝いもあり、身体の状態により利用者にはゆっくり、時間をかけた食事支援がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を基にその人の状況に合わせた刻み食やトロミ食の提供もしている。高齢者の脱水には特に気をつけ、介護記録に一日水分摂取量を記録して健康管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがい、歯磨き、義歯洗浄をしている。さらに義歯は就寝前に預かり、磨き残しのチェックや除菌を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを見逃さないようにしてトイレ誘導している。	大部分の利用者がトイレを利用しており、個別記録に記載した排泄チェック項目を確認し排泄パターンの把握や身動きのサインによりトイレ誘導している。利用者の身体機能に応じて排泄支援の手法を工夫するなどして自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や整腸作用のある食品の提供をしている。また、毎日体操や歩行訓練を通して腸のぜん動運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者からの希望により順番を決めて公平に入浴出来るようにしている。一人で入浴する人については声掛けをして安全に入浴できるようにしている。	脱衣室には、トイレや暖房設備があり、浴室も明るい色調となっている。週5日が入浴日となっており、ゆず湯やしょうぶ湯など季節感も取り入れ楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースにあった入眠、起床、昼寝をしている。また、好みの場所で休息出来るようにソファを配置している。眠れない人には暖かい飲み物を出したりしてゆったりとした対応と傾聴で入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の薬剤情報をファイルにしてすぐに確認出来るようにしている。与薬はダブルチェックにし服薬は本人の前でその都度確認している。介護記録には服薬状況を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯物の整理などの役割を持ってもらい、張り合いや喜びが持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に沿ってドライブ、買い物、散歩等の支援をしている。また、ご家族やボランティアの協力で日帰りバス旅行も恒例行事となっている。	付近のスーパーでの買い物や近隣の桜並木や公園への外出支援、町内会のボランティアや家族の協力による温泉旅行等の外出支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人には、常時三千元～五千元所持してもらい使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などへの電話の希望があればその都度掛けてもらっている。手紙などは自由に差し出が出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄機や加湿器を設置すると共に、室温のこまめな管理を行い快適な生活が出来るようにしている。また、季節毎の絵や飾り付けを行っている。	天井の高いリビングや広いベランダは、明るく開放的であり、居心地よく過ごせる空間となっている。壁面に飾られてある利用者の書やつるし雛などの作品は個性的であり、暖かい家庭的雰囲気を醸成している。利用者の好みにより自由に過ごせる畳敷きの場所もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はソファで仕切り、一人になれたり小人数でも過ごせるように配置している。廊下には小鳥を飼いソファを置くことで自然に人が集まるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各居室には、ベットとクローゼットが設置されているが、利用者の使い慣れた家具を持ち込み暮らしやすい環境を整えている。	利用者が居心地良く生活できるよう、それぞれの好みに合わせて、鏡台、家具、仏壇等を配置し、馴染みの環境の中で安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イス用洗面台を設置したり、リビング、廊下、トイレ、浴室等に手すりを取り付けてある。転倒防止のために、ベット脇に椅子やがっちりしたソファを置くなど工夫している。		